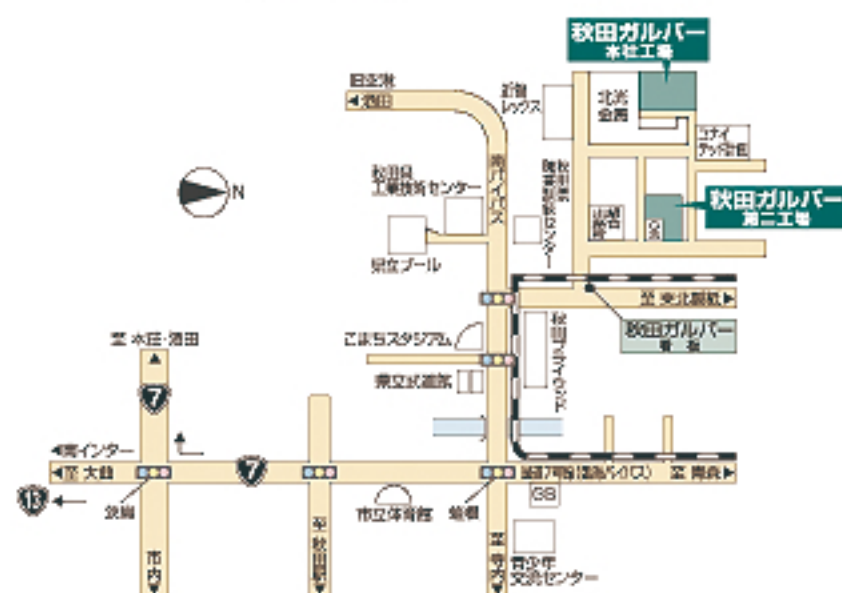


## 会社概要

商号/秋田ガルバー株式会社  
代表者/代表取締役社長 田中 健  
創立/平成11年4月  
資本金/6,000万円  
従業員/30名  
取引銀行/秋田銀行 港北支店  
          商工中金 秋田支店  
関連企業/田中亚鉛鍍金株式会社  
          横浜ガルバー株式会社

## 会社沿革

平成11年 4月/田中亚鉛鍍金株式会社、横浜ガルバー株式会社、大久工業株式会社の出資により、秋田ガルバー株式会社を創立する。資本金3,000万円。  
平成11年 6月/大久工業株式会社のメッキ部門を買収し、工場の増改築工事に着手する。  
平成12年 1月/増改築工事が完了し、めっきの生産を開始する。  
平成12年 9月/溶融亜鉛めっき加工技術について、日本工業規格表示認定工場となる。(認定番号2JS0004)  
平成13年 3月/資本金を6,000万円に増資。  
平成13年 5月/めっき槽を350mm嵩上げし、深さ2,350mmとする。  
平成13年10月/向浜団地内に第2工場(敷地2,600㎡、倉庫建屋815㎡)取得。



## 秋田ガルバー株式会社

本社工場/〒010-1601 秋田市向浜1丁目7番3号(向浜団地内)  
TEL.018-864-7500(代表)  
FAX.018-864-7504  
第二工場/〒010-1601 秋田市向浜1丁目5番11号(向浜団地内)  
ホームページ: <http://z-mekki.com/akita.html>  
E-mail: [akitagalva@z-mekki.com](mailto:akitagalva@z-mekki.com)

グループ企業

### 田中亚鉛鍍金株式会社

本社・工場/JIS表示認定工場  
〒055-0602 大田町西成11区東船場5丁目1番1号  
TEL.09-6472-1231/0

### 横浜ガルバー株式会社

本社・横浜工場/JIS表示認定工場  
〒229-2001 神奈川県横浜市長谷区上末吉2丁目16番6号  
TEL.045-571-4081/0

小山工場/JIS表示認定工場  
〒283-0115 栃木県下野郡下河原町大字1835-1  
TEL.0285-45-1919/0

# QUALITY 21

— 新世紀・新クオリティ宣言 —

AKITA GALVANIZING Co., LTD.

# 新しい鉄の世紀の始まり。

## 先進技術と高度なノウハウで「鉄」の新時代を拓く。



鉄に対する防錆・防食加工の中でその耐久性と経済性が理解され、

世界的に大きなニーズを産み出している溶融亜鉛めっき。

秋田ガルバーはこの溶融亜鉛めっきの専門企業として、よりすぐれた加工技術の提供のために

高度な生産設備の拡充と高品位な生産管理の徹底に

最大の努力を続けています。

なかでも大型めっきラインは近年急増する大型鋼構造物や

複雑構造物といったニーズにもアクティブに対応できるものとして、

溶融亜鉛めっきの活用範囲をさらに大きく

広げることでしょう。



### 営業品目

溶融亜鉛めっき加工

### 主な用途

- 建築構造物
- 鉄骨建屋・立体駐車場・
- スキー場リフト・温室ハウス
- 道路・鉄道
- 橋梁・橋脚柱・ガードレール・
- グレーチング・有孔板・駅舎
- 電力・通信
- 送電鉄塔・照明塔・
- 変電所・架線金物

### 設備概要

敷地面積

6,000m<sup>2</sup>

延床面積

2,600m<sup>2</sup>

めっき加工能力

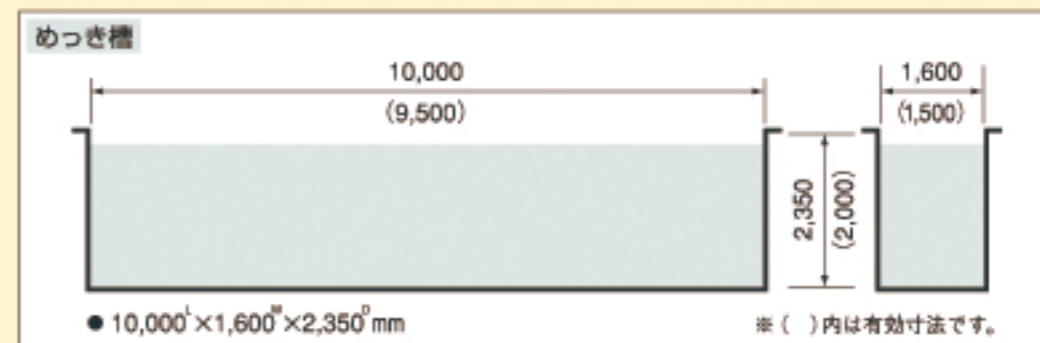
1,500トン/月

排水処理設備

処理能力10m<sup>3</sup>/H

めっきクレーン

6連式無段階インバータ制御特殊クレーン



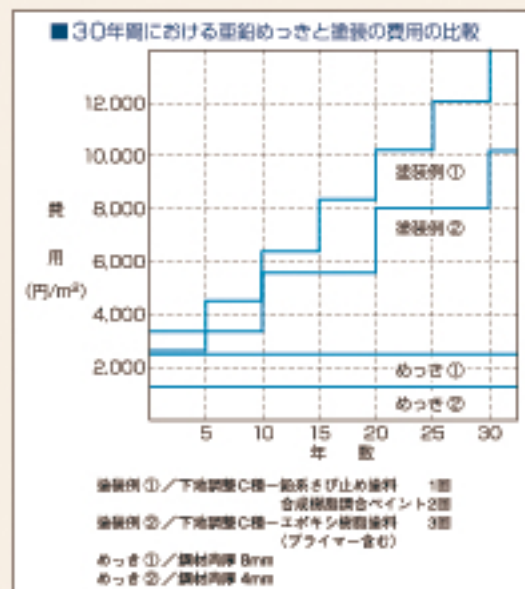
# 信頼に応える高度な品質管理と抜群のコストパフォーマンス。

「真に優れた溶融亜鉛めっきとは何か」  
 その答えとして第一に上げられるのが「安定した品質」です。実に簡単な答えですがそれを実現するためには、溶融亜鉛めっきのすべての工程において、確実なノウハウの蓄積が必要とされるのです。  
 そしてもう一つが「コストの適正化」。ニーズが広がるほどに処理コストに対する要求も厳しさを増してきました。それにお応えするためにお客様のニーズを分析しリーズナブルなコストで要求を満たすための様々なご提案を行う事が可能となりました。技術力が問われる複雑な大型建造物の溶融亜鉛めっき、私たちは信頼にお応えいたします。



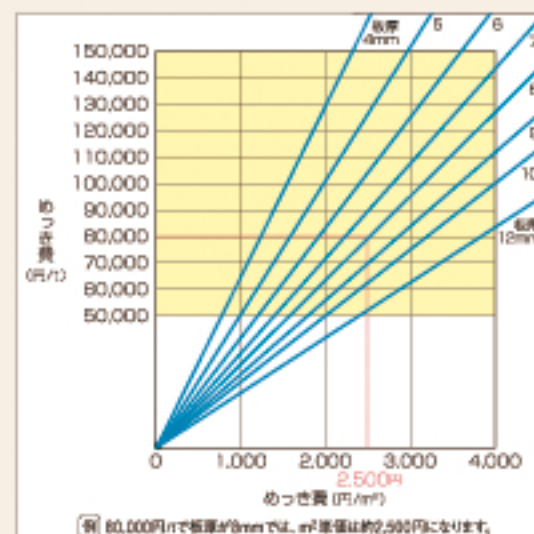
## ■ 経済性

下図は30年間に要する、イニシャルコストとメンテナンスコストのトータルコストの推移を表わしたものです。塗装は通常数年の周期で塗り替えを必要としますが、溶融亜鉛めっきは被膜の寿命が長く、長期メンテナンスフリーですから、経済的に非常に有利であることは明らかです。

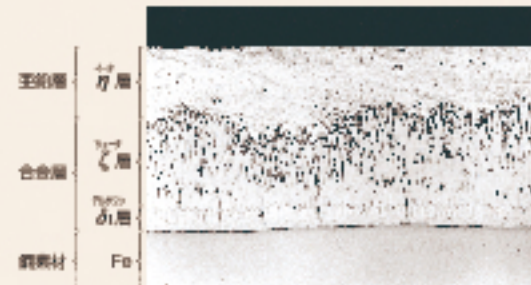


## ■ 換算図

めっき量は通常重量当りで示します。これを塗装費で用いられる面積当りと比較する場合には、下図で換算できます。

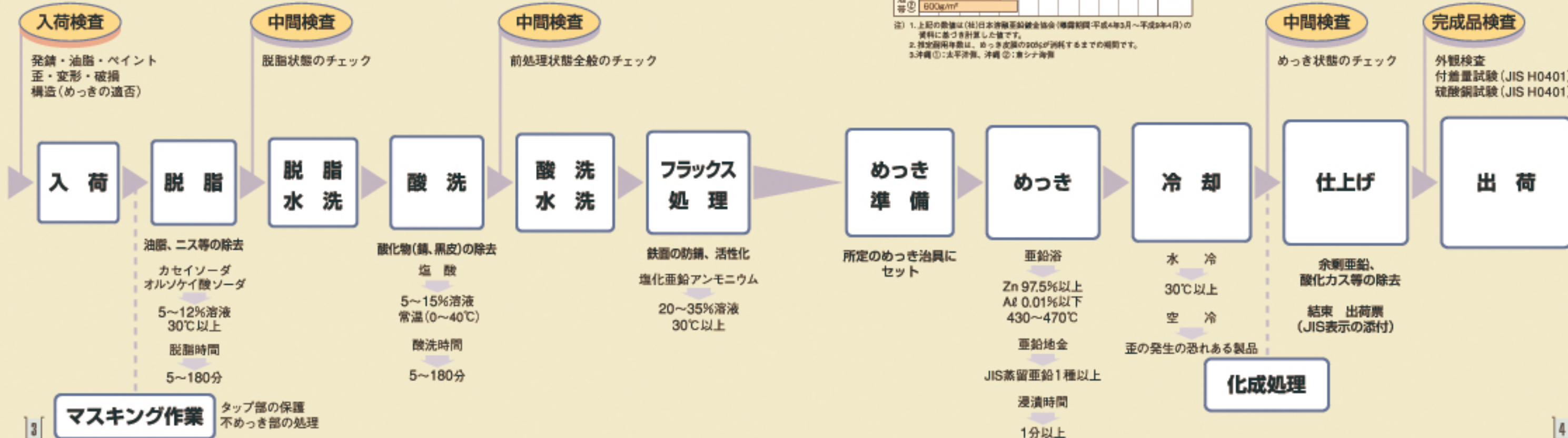


## ■ 溶融亜鉛めっき皮膜断面



## 溶融亜鉛めっき作業工程

JIS H9124に準拠



## ■ 溶融亜鉛めっきの推定耐用年数

環境	推定耐用年数					年間消費重量 (g/㎡/年)
	20	40	60	80	100	
工業地帯(郊)	400g/㎡	500g/㎡	600g/㎡			9.5
田舎(郊)	400g/㎡	500g/㎡	600g/㎡			4.6
海岸(半)	400g/㎡	500g/㎡	600g/㎡			17.2
海岸(全)	400g/㎡	500g/㎡	600g/㎡			11.1

注) 1. 上記の数値は(社)日本溶融亜鉛めっき協会(専断期間平成4年3月~平成9年4月)の資料に基づき計算した値です。  
 2. 推定耐用年数は、めっき皮膜の90%が消耗するまでの期間です。  
 3. 沖積①:太平洋側、沖積②:東シナ海側

新世代の建築を支える鉄の新たな可能性  
あらゆる分野で貢献する溶融亜鉛めっき



▲ 畜舎



◀ 防雪柵・保線柱



▲アーケード



▲ 移動体通信鉄塔



▲ ゴム蓋



▲ 駐車場



▲ 照明灯



▲ 防風ネット支柱